

## 令和6年度第2回国有林モニターアンケート（結果概要）

東北森林管理局では、開かれた「国民の森林」の実現に向け、国民の皆様のご意見やご感想を適確に把握し、それらを反映した管理経営を推進するための取組の一つとして、国有林モニター制度を設けています。

この度、令和6年11月に、令和6年度第2回国有林モニターアンケートを実施しましたので、その結果概要についてお知らせします。自由意見等については、抜粋・整理して掲載しております。

今回アンケートにご協力いただきました国有林モニターの皆様に、厚く御礼申し上げます。

### ○アンケートの実施概要

発送 : 令和6年10月31日  
回答期限 : 令和6年11月22日  
回答率 : 79% (47人中37人)

### 回答者の内訳

|        | 男性 | 女性 | 計  |
|--------|----|----|----|
| ～29歳   | 1  | 0  | 1  |
| 30～39歳 | 3  | 1  | 4  |
| 40～49歳 | 5  | 6  | 11 |
| 50～59歳 | 2  | 4  | 6  |
| 60歳以上  | 9  | 6  | 15 |
| 計      | 20 | 17 | 37 |

国有林モニター制度とは、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、広報やパンフレットで情報提供を行うとともに、アンケートの実施やモニター会議の開催等を通じて意見を伺うなど、国民の皆様と国有林との間で、双方向の情報受発信を行う取組です。

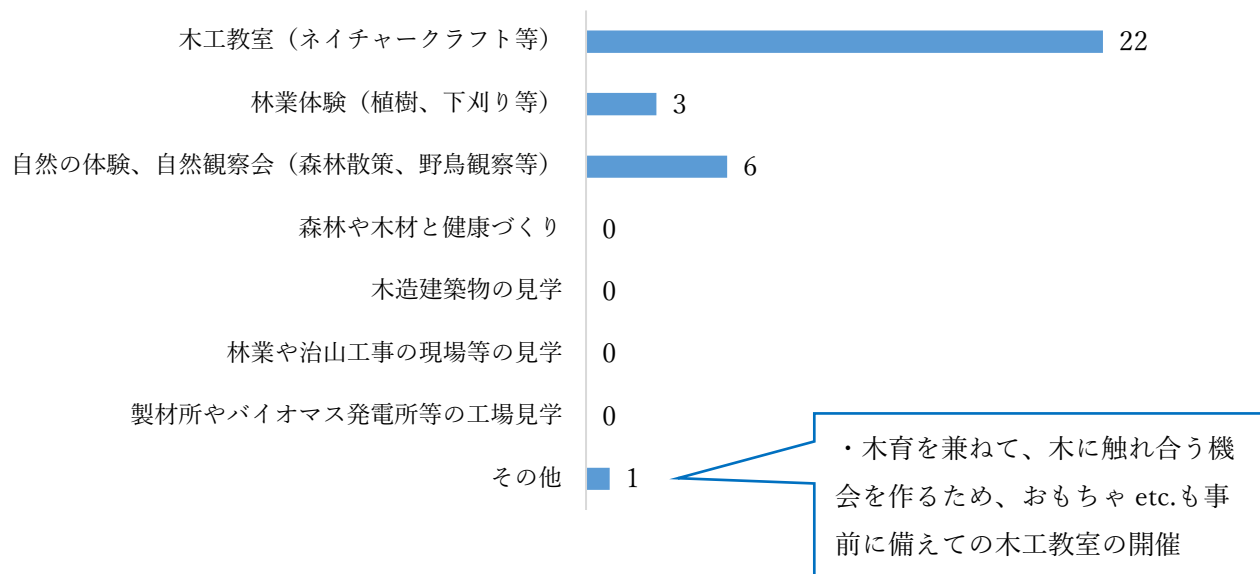
現在、令和6年4月～令和8年3月の2年間を任期として、管内5県の47名の方に国有林モニターとして活動していただいております。

## 1 森林レクリエーション、森林環境教育について

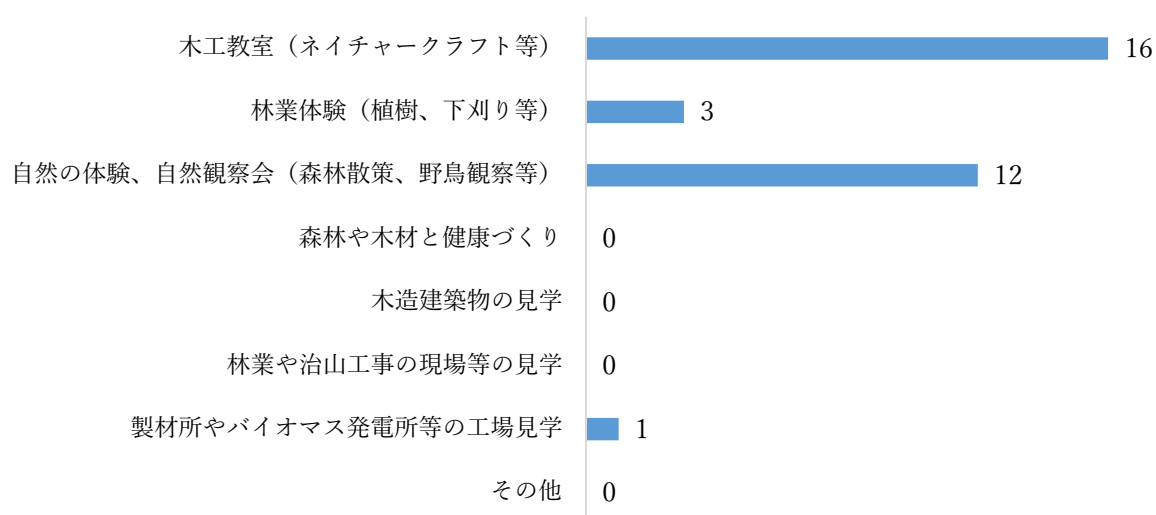
国有林では、国有林の豊かな森林環境を活かし、森林とのふれあいを通じて自然と親しみ、学んでいただけるように様々な森林レクリエーションや森林環境教育を実施しています。

(1) イベント等を開催する場合に、どのような内容であれば、より森林・林業・木材産業に興味を持っていただけたらと思いますか。それぞれの年代ごとに1つずつ選んでください。

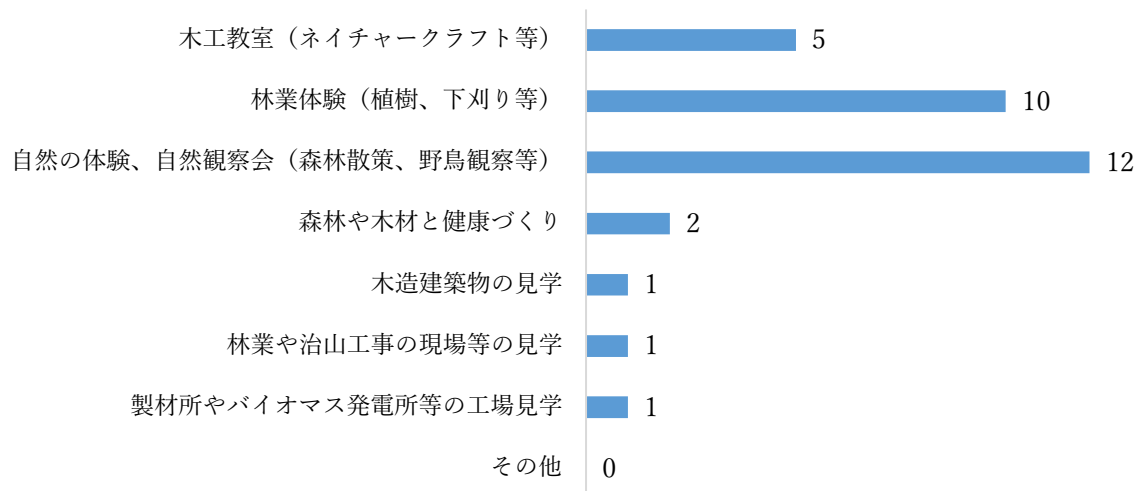
### 【未就学児】



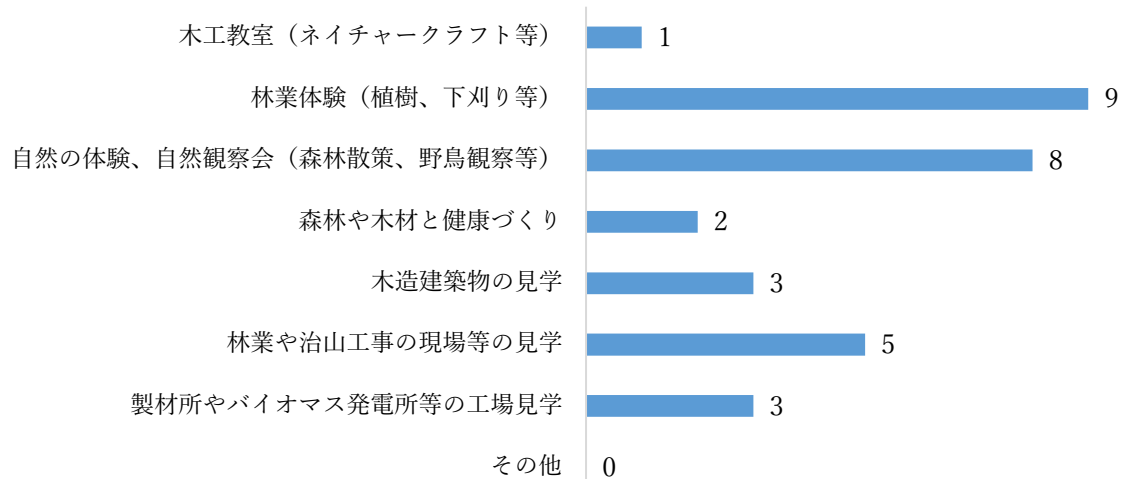
### 【小学生】



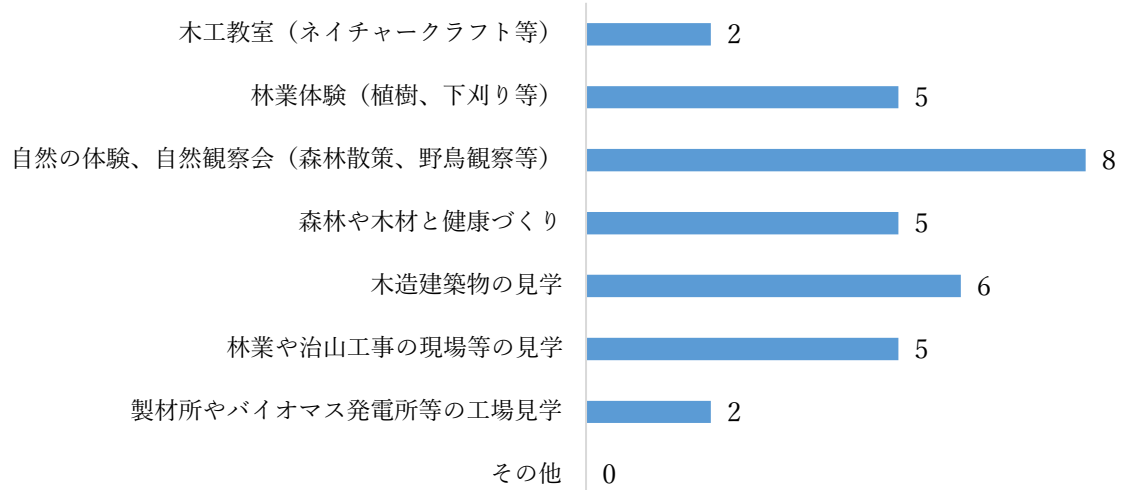
## 【中学生】



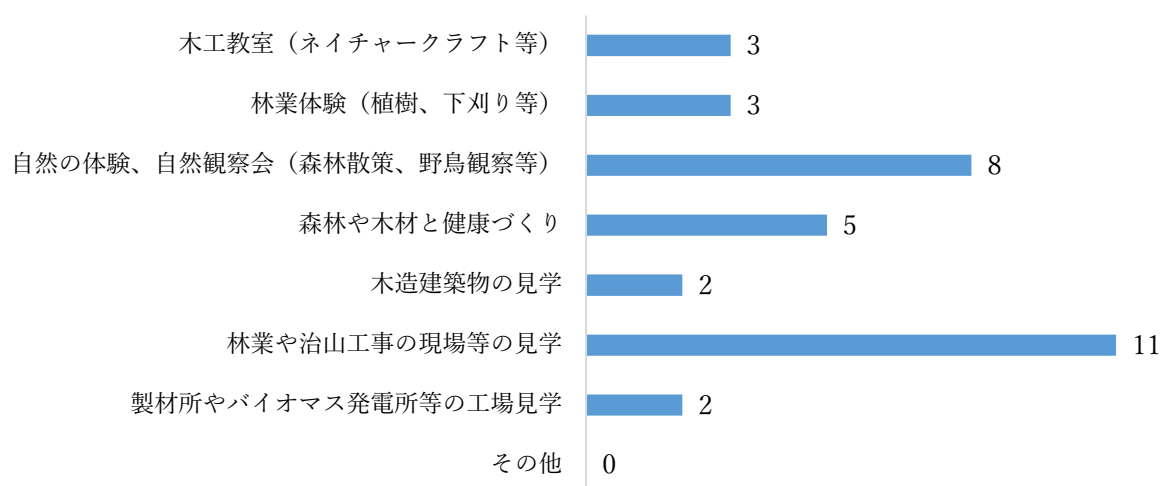
## 【高校生】



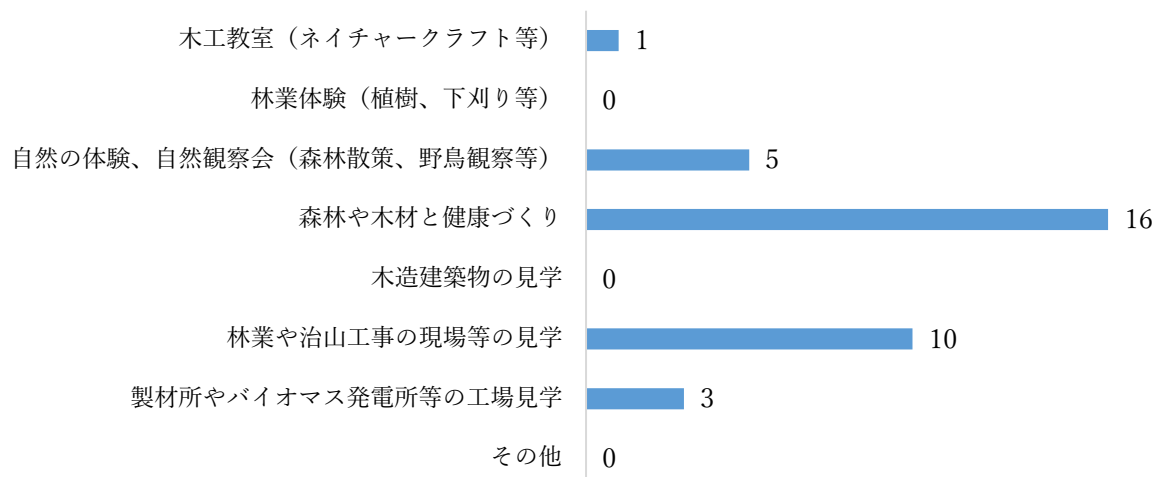
## 【～40歳】



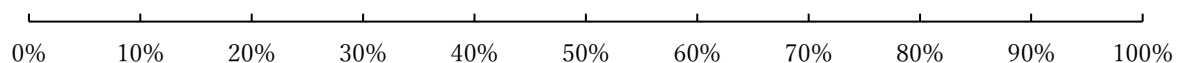
## 【41～60 歳】



## 【61 歳～】



（２）①今までに団体等が主催する森林レクリエーションや森林環境教育のイベント等に参加したことがありますか。



②（「参加したことがある」と回答された方）参加した中で1番心に残っている内容、参加された際の年代を教えてください。

**【未就学児】**

- ・ 森の中でターザン、シーソー、ハンモック、散策、葉っぱ遊びなど。

**【～40 歳】**

- ・ 白神山地周辺の森林散策会（職場の登山部主催）。
- ・ 現地見学会（岩手県住田町での火の土鉱山跡等の見学）。
- ・ 植樹祭の記念植樹に招待され、家族みんなで参加。
- ・ 地元の松林の公園でアジサイの植栽と木工クラフトを行う小学生対象のイベントに娘と一緒に参加。
- ・ 子供が幼稚園生の頃、親子で植樹するイベントに参加。子供用の軍手、スコップ等が用意されており夢中で楽しんでた。今日植えたのが何年後はここまで成長するといった説明も図などと併用して伝えており、親子共々分かりやすく聞いた。本人が成長してから植えた木の成長が分かり、しみじみしていた。
- ・ 森吉山の高場森・桃洞杉を見に行くイベント。
- ・ 自然の家の森林まつり（自然観察、木工工作、木工品での遊び（竹馬、輪投げ、的当てなど））。
- ・ 旅行代理店の森林資源体験（森林の観察、枝木の伐採、木材片での工作、製材所の見学）。

**【41～60 歳】**

- ・ 市の団体で催された植樹祭（万年の森植樹祭）に参加。家族みんなで、ブナやナラなどを植樹した。参加者はスポーツ少年団や小学校の代表学年等。
- ・ ネイチャークラフトや木工教室、森林の観察会、植林、育林。
- ・ 里山歩き。

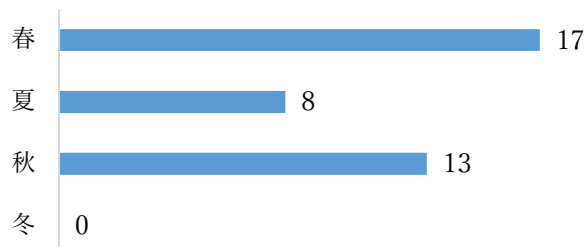
**【61 歳～】**

- ・ 自然観察会、木工教室。
- ・ 薬研森林鉄道を歩くイベント。
- ・ 山登り教室。
- ・ 第43回森林（もり）の市 in AKITA。
- ・ 「山形県農林まつり」の一環として、色々なイベントに参加し大変有意義な時を過ごせた。
- ・ 自然観察会で地元の山の植生について散策しながら学んだ。

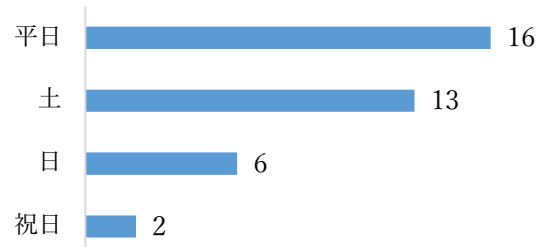
(3) 東北森林管理局や森林管理署が主催する森林レクリエーションや森林環境教育について、お聞きします。

開催形態や内容等について、ご自身が参加する場合に当てはまるものを1つずつ選んでください。

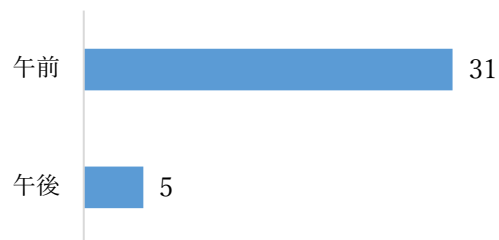
### ①参加したい季節



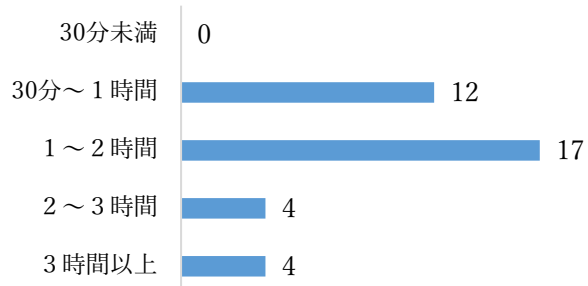
### ②都合がよい曜日



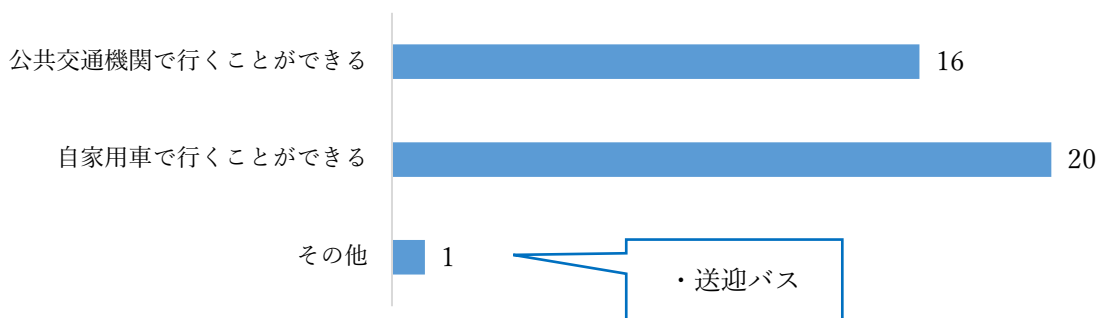
### ③都合がよい時間帯



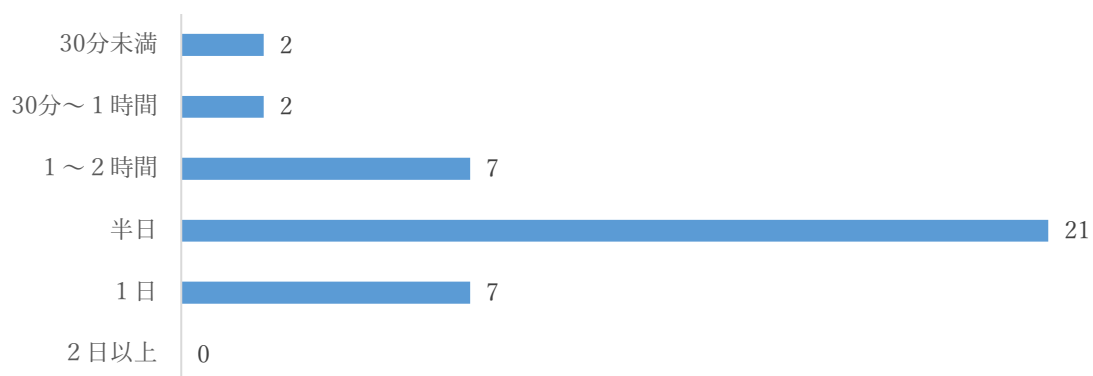
### ④許容できる自宅からの移動時間



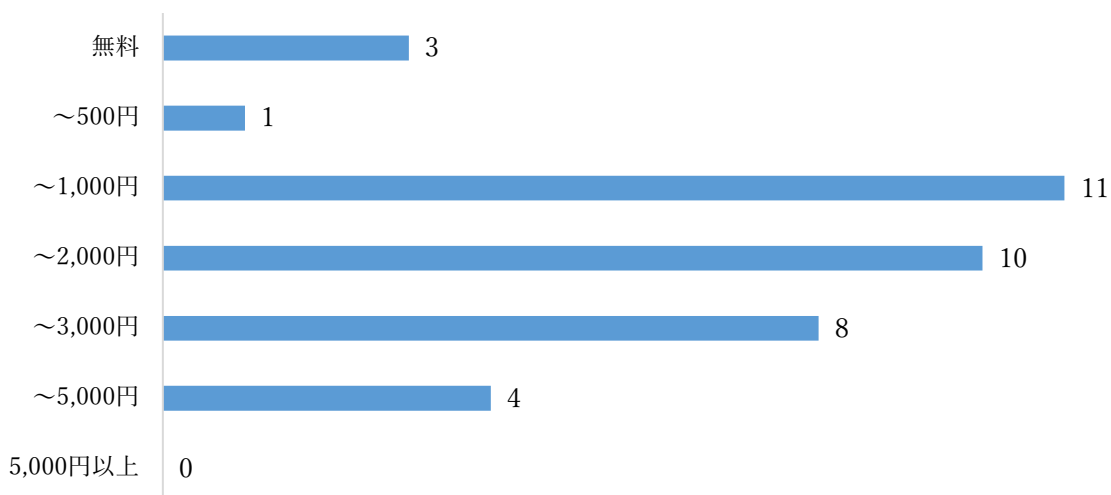
### ⑤好ましい移動手段



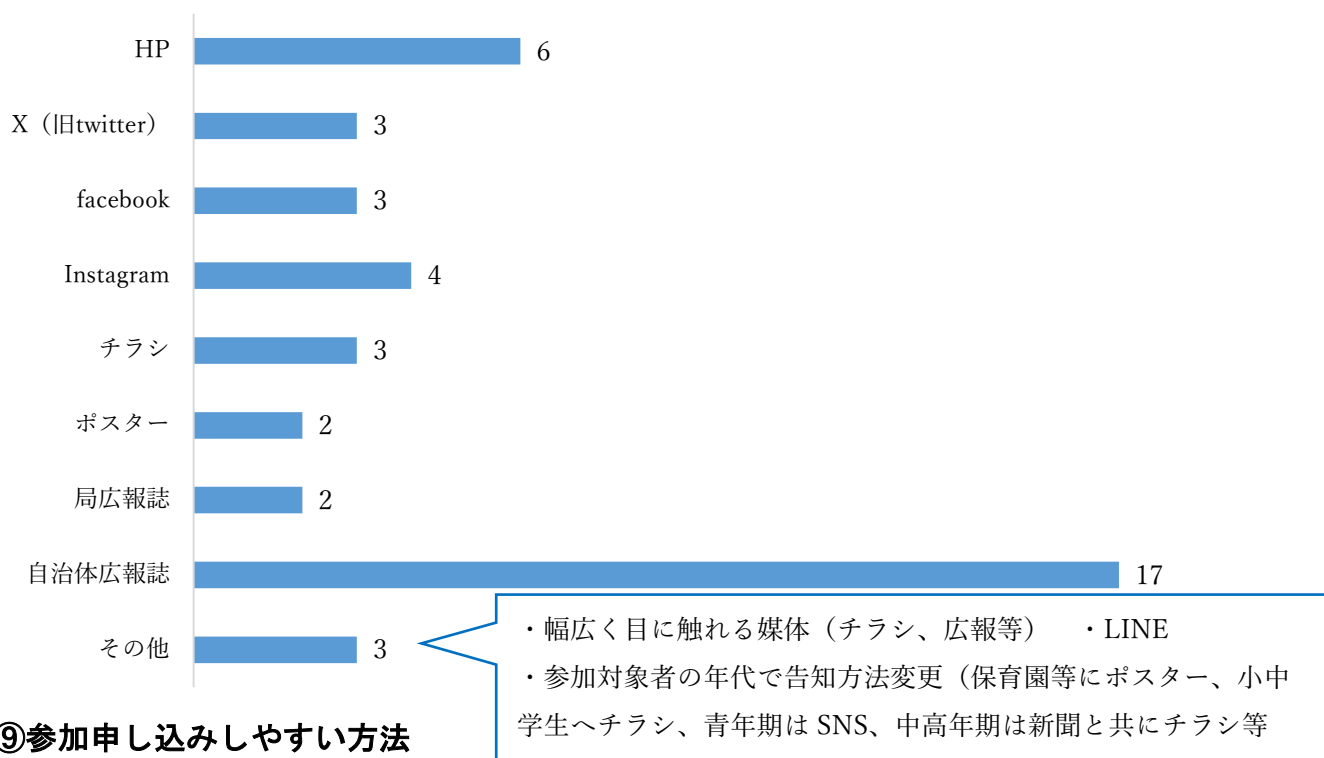
### ⑥ちょうどよい開催時間



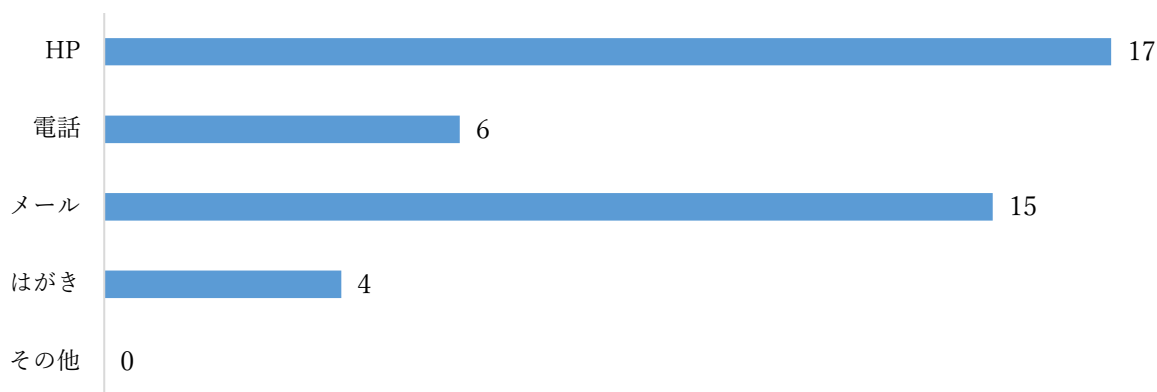
## ⑦許容できる参加費用



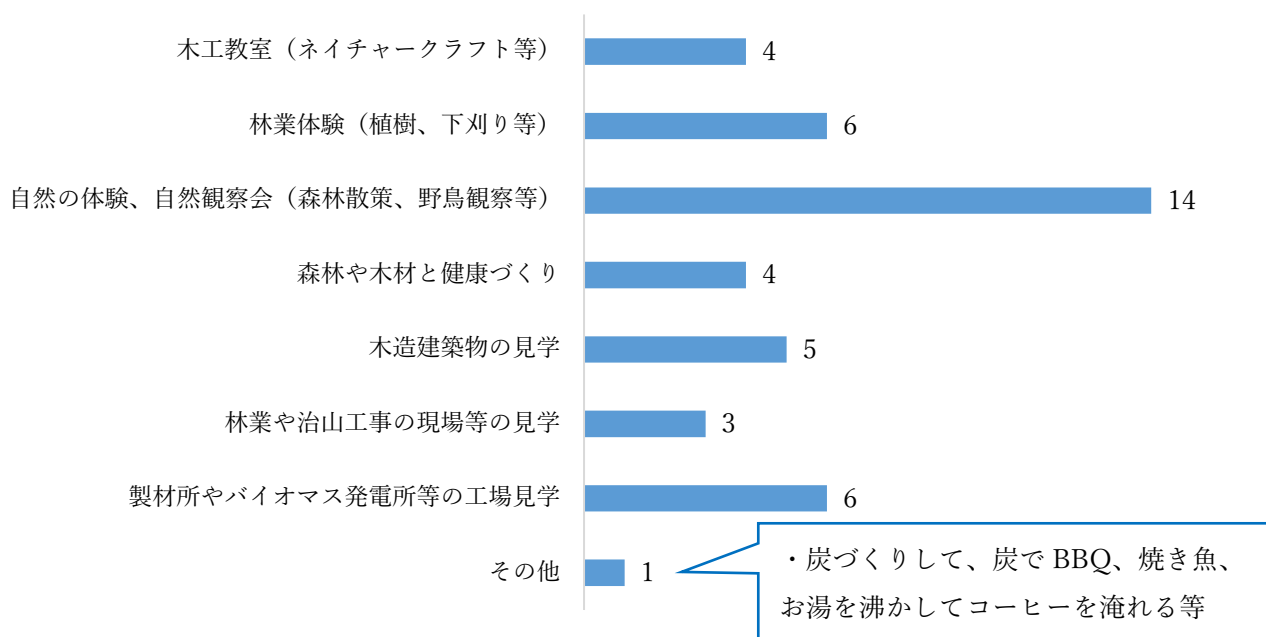
## ⑧開催告知に有効な方法



## ⑨参加申し込みしやすい方法



## ⑩参加したい内容



### （４）森林レクリエーションや森林環境教育について、ご意見やご要望等をご自由にお書きください。

- ・「森林オーナー制度」のような、単位面積当たり一定の金額を支払うことで、その木を所有して何らかのメリットが得られたり、レクリエーションに参加できたりすれば面白いのではないかな。
- ・カードゲーム「ZORING（ゾーリン）」は、小学生の授業に取り入れて欲しい。
- ・遠足、登山、キャンプなど学校で山や森に行く機会を作って欲しい（小中高様々な年代で）。公募して参加する人は一部に限られるので、学校教育に森林レクリエーションを取り入れ、自然に親しむ時間を少しでも多く作ることが環境教育になると思う。
- ・親子で参加できるイベントがあれば良い。
- ・四季を通してゆっくりと溪流と森林浴を楽しめることを宣伝していければと思う。
- ・子供たちに森林環境に関心を持ってもらうために、学校教育のカリキュラムに盛り込むことを、文部科学省と農林水産省がタイアップして行っていく事が必要だと思う。
- ・今のままでは、一次産業従事者や森林環境についての研究者人口が減っていき、日本の森林・山林がどんどん荒れていくのは目に見えている。森林面積のうち国有林が3割、あとの7割は民有林ということで、山の手入れを全くしていない林が昔と違って増えているように見受けられ、山や森林の管理の仕方をレクチャーする仕組みも一般の人に対して全く整っていないと思う。それらをサポートしていく、行政や公的機関のシステム構築も期待したい。

- ・森林について知らないため興味を持てないので、知ってもらうために、学校教育の授業の一環や幼稚園行事などに、毎年、組み込んでもらいたい。教育では実際に現場に行き、手を動かして体験させることで記憶に残る。

例として、

小学1年生 制約なしで森で遊ぶ（何もないところで遊べる能力が子どもにはある）

小学2年生 木の実を探して、実と木を一致させる遊び

小学3年生 木の皮を見て、樹木を当てる遊び

小学4年生 木目を見て、樹木を当てる遊び

小学5年生 木のおもちゃで遊び

小学6年生 木のおもちゃを作る

中学1年生 どんぐりを鉢植えに植える。のこぎりで伐木

中学2年生 芽が出たどんぐりを山に植える。地すべりと土砂が海に流れている

ところを見学

中学3年生 どんぐりの木を製材して、まな板を作る、等

- ・建材のシックハウスの原因や、日本の100年杉で作った部屋やベッドはアレルギーや認知症、夜尿症、夜泣きなどに良い効果があるなど、人間の身体に及ぼす化学物質の影響を学習する。
- ・子ども達が気軽に木と触れあえる環境を作っていく事が必要と考える。アスレチック遊具の設置、木材を使った工作教室を学校等で行っても良いかと考える。そのうえで森林や国有林についても講義があれば尚良いかもしれない。
- ・体験版や地域の祭りとコラボ（仮装やマスコット配り）などどうか。
- ・地域ごとに開催されるイベントの内容や日時、年間予定等が分かると嬉しい。
- ・実作業や実労を伴うものが良いと思う。難しいと思うが、安全優先になってあまり現実からかけ離れた現場での体験にならないような工夫が必要と思う。
- ・周囲が森林で当たり前に見てきているので、特に何の疑問も抱かず過ごして来た。しかし、あまりにも木が成長して鬱蒼とし、道路近くになると日光が遮られたり、台風、強風などの自然災害時には、枝が折れたり木自体が倒れたり危険な状態を見かけることが増えてきた。誰かの所有ではあるかと思うが、なかなか手入れ等されておらず、手つかずで放置されているのを見ると、何とかすれば資源になるんだろう、もったいないなと思う。森林に関心を持つことが大事だと思う。幅広い年代の方々が参加し、学校教育でも専門の人を派遣し、子供達にも興味を持って話題にのぼるような環境になってほしいと思う。地方に行くほど森林がたくさんあるので、それを活かしてうまく利用しながら共存していく道を導いてほしい。
- ・国有林を2時間くらい歩いてみたい。
- ・塾のように週1回等定期的に開催され、都合の良い時に参加できるものがあれば良いなと思う。内容はレクや観察会、キャンプのご飯作り、下草刈り、登山道の整備等幅広く。

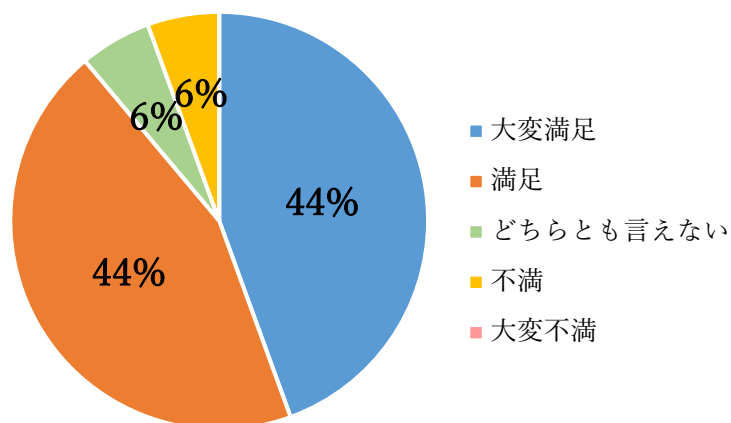
- ・単独ではなかなか入ることができないコース、観光地ではないところでの実施を希望したい。
- ・自由にのびのびと緑や水に関する発言が出来る環境が整えば良い。
- ・授業や校外学習などでも工業や商業だけではなく、農林水産業もっと見学すべき。幼少のころから、農林水産業（特に林業が一番縁遠くなっているのが現状）と触れ合う機会を増やしてあげたい。やはり、子供のころから森林や樹木（林業）などに接する機会をたくさん作ってあげることで、その後の人生でも馴染みのある世界となるのではないかと思う。また、木造校舎・園舎の推奨、もしくは建築済み校舎内の木質化を進めるべきだと思う。同様に自治体庁舎や医療機関の建物も木造を推奨してほしい。木造建築物や木質の内装は人々の精神を癒す効果があるらしいので、ストレス抑制効果と併せていじめの抑制などにも繋がるのではないかとされる。この辺りは、農水省（林野庁）と国交省、文科省などとのコラボレーションが重要になると思うので、縦割り行政の壁をブレイクスルーしてほしい。
- ・森林レクリエーションがもっと普及できるような取り組みがあればいいと思う。森林をもっと知りたいと思っても、知識がないまま見るのと、解説を聞きながら見るのとでは、自分に入ってくる情報量が違う。みんな森林を嫌いなのではなく、どうしたらいいのかわからないから森林と向き合えないと思う。
- ・その土地の特徴（歴史、文化、生態系）を、地元の人から学ぶ森林環境教育が望ましい。
- ・小学校低学年位までの子ども達が参加するイベントや学校行事はよく聞くが、中学生、高校生のためのイベントや学校行事があってもいいと思う。本気で森林のことを考えて行動するようになるのは、ある程度大人になってからだと思う。
- ・例えば、国内の木材需要が減ったこと、林業従事者減少のため、古い立木が多くなり、山が持つCO2吸収の力が弱まっていて地球温暖化が進む要因になっていることなど、小中学生に山の現状と課題を理解してもらう必要があると思う。

## 2 現地見学会について

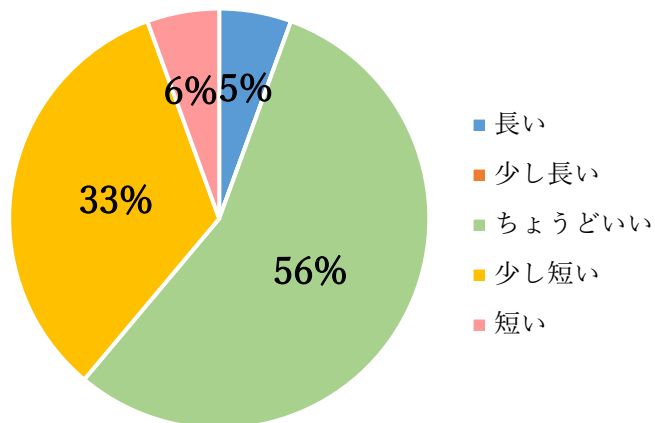
(1) 10月10日(木)に盛岡森林管理署管内で実施した現地見学会について、教えてください。

### <盛岡森林管理署での治山・造林事業の説明>

説明内容

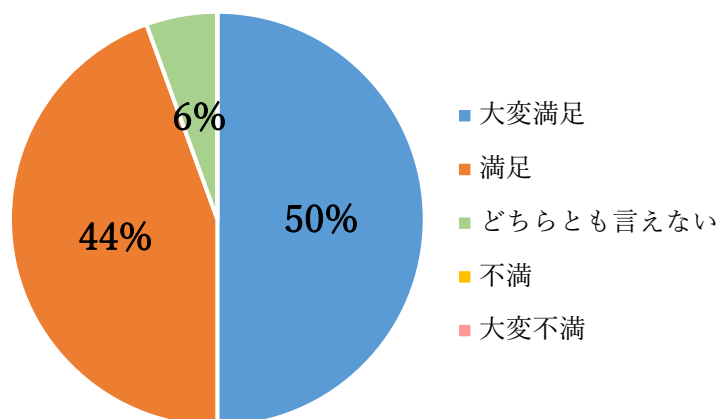


説明時間

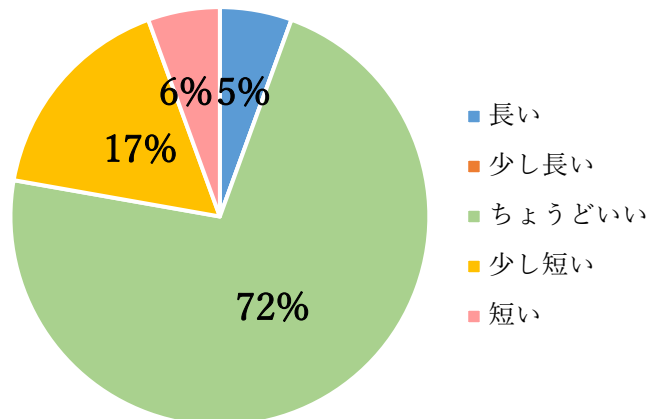


### <盛岡森林管理署でのカードゲーム「ZORING (ゾーリン)」の体験>

体験内容

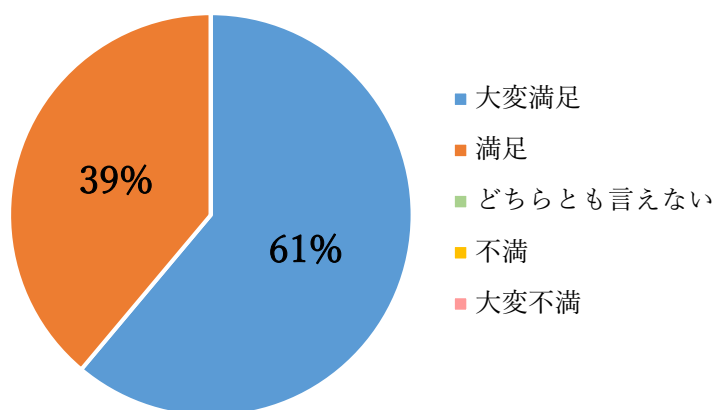


体験時間

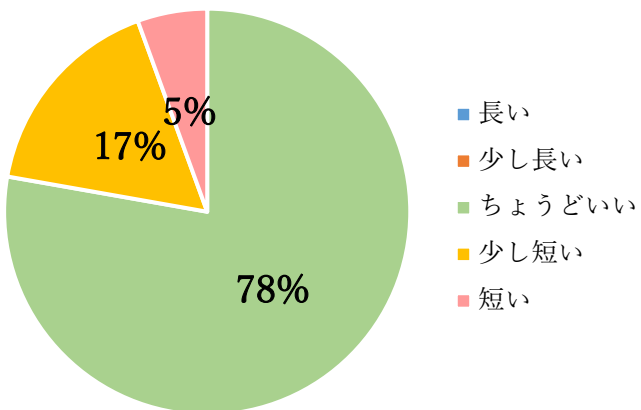


### <川井林業雫石工場での見学>

見学内容

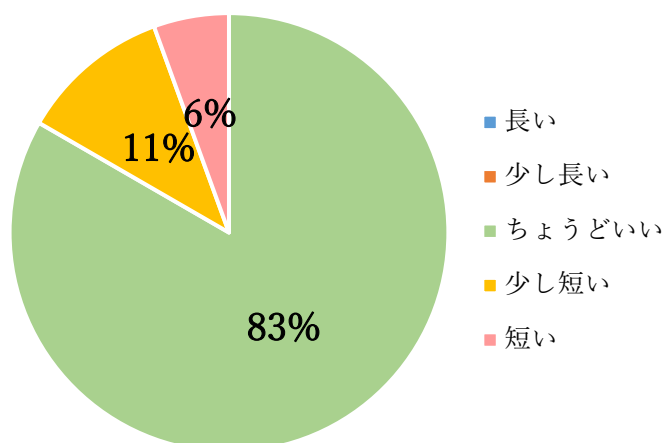


見学時間

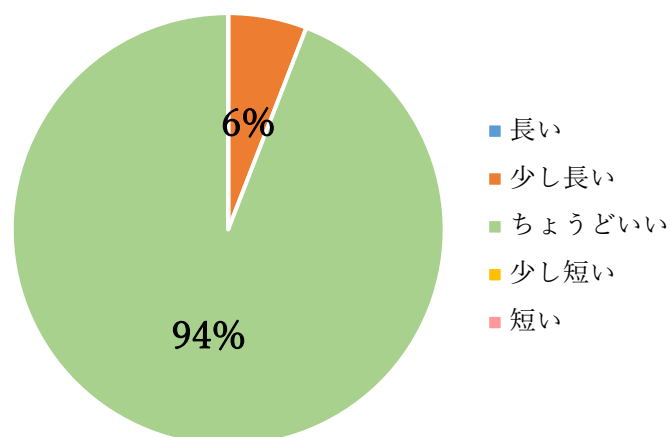


## <見学会全体>

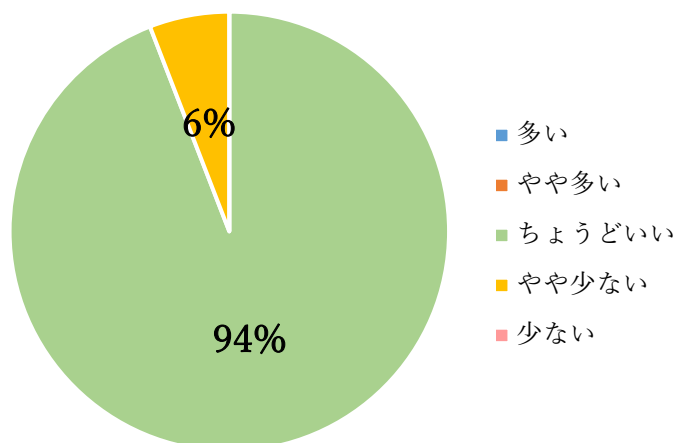
昼食時間



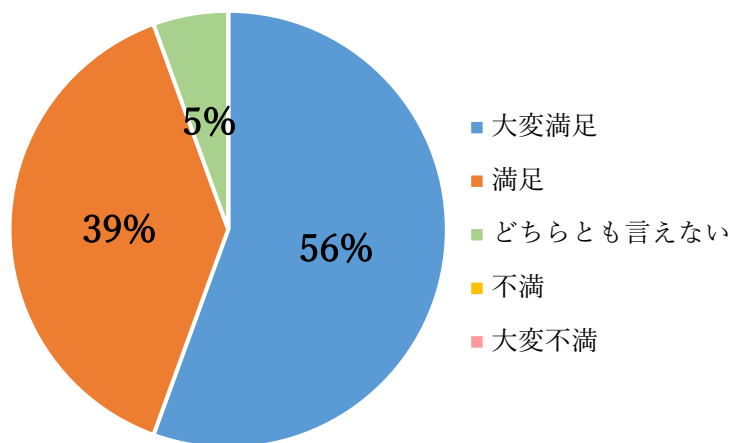
移動時間



配布資料



満足度



## (2) 今回の現地見学会についての意見・感想等

- ・移動中に皆の質問や意見を聞くことで、国産材や森林環境教育の興味が深まった。
- ・カードゲームが思ったより盛り上がった。工場見学も、最先端の機械が見られて勉強になった。関連して、どうすれば林業が国（国民）益に繋がるかについて意見交換など行えば、より有意義な会になったと思う。
- ・盛岡森林管理署での説明の時に、担当からの説明のみで終わってしまったので、モニター側からの質問タイムも設けてほしかった。
- ・今回は特に移動中のバスの中でみんなと話す機会があったので、とても楽しく過ごせた。
- ・火山活動の影響で現地が見学できなかったことはやむを得ないことで、そのような条件下、座学での学ぶ機会を設けてもらいありがたかった。  
1回目の現地見学会より改善されていて（自己紹介やスタッフとの会話・質問）、楽しかった。

- ・ゲームの「ZORING」が楽しかった。カード一式（購入でもいいので）欲しかった。
- ・充実した一日で、バス内での自己紹介から連帯感が生まれたと思う。他の参加者が職員採用等興味のあることを色々質問していたが、私も詳しく知りたいと思った。
- ・火山活動の影響で現地視察が出来なかったのは残念だったが、そこを補うようなプレゼンが、大変勉強になった。今までに疑問に思っていたことが解決した。
- ・森林管理局職員の方に直接話を聞けたが、治山・造林事業説明での質疑応答時間を十分にとれれば良かったと思う。
- ・最先端の製材工場を見学出来て貴重な体験になった。導入されている機器がドイツ製等外国製であることに、日本の林業界のみならず工業界も含めての将来に危機を覚えた。別の日に見学したレタス生産プラントでもシステムはオランダ製で、自国で林業・農業を支える技術開発を育成する必要もあるのでは、と思った。
- ・現地見学が中止になったのは残念ではあったが、計画を「ZORING」に変更した担当者の配慮に感謝。また、製材工場「川井林業」は想像以上の規模で圧巻だった。すべての作業過程がコンピューター管理され、工場内の作業員も驚くほど少人数であったことが印象的だった。自然環境に配慮した工場内はきれいで、これからの働き手に希望を与える意味でも地域貢献できる職場だと感じた。このような企業が模範になり、林業がもっと理解をされるよう期待する。とても有意義な見学会だった。
- ・岩手山登山道の通行禁止は残念だった。天気次第だが昼食は野外（弁当）でも良いと思う。また、質問時間をもう少し長く取った方が良いと思う。
- ・やはり今回はやむを得なかったこととはいえ、現地での見学ができなかったことが残念。次回に期待したい。
- ・ガイド（特に川井林業の担当者）の丁寧な説明が大変分かりやすかった。
- ・今回は、残念ながら岩手山を見学できなかったが、充実した見学会だったと思う。資料についても、ある程度早めに送付あったので、多少予習して臨むことができた。逆に、岩手山の火山対策事業・治山事業などの事前送付資料があっただけに、実地見学できなかったのが残念だった。また、今回の見学変更は、改めて日本が火山大国であることや、山林の事業活動が自然を相手にしたものであり、自然状況（自然災害だけでなく、野生動物なども含む）に大きく影響される大変過酷な産業（事業）であることを痛感した。残念だったが、見学変更も含めて、幅広く山林事業（林業・国有林事業）を学ぶことができたと思う。
- ・できれば年に1回でいいので、見学会とは別に座学の機会を作ってもらいたい。また、東日本大震災からの復興状況（防潮林）や今後の計画、秋田杉の状況（仁別森林博物館）等を専門家の方のレクチャーを頂きながら見学させてもらえればと思う。今年度の見学会を振り返っても、専門家の方のレクチャーを頂きながら見学できるのはとても貴重な経験であり、個人で見学に行くのと比較して学習の質が全然違うと思った。国有林モニターをやってよかったと感じた。

### (3) 今回の現地見学会に参加いただけなかった理由（複数回答可）

